

愛知大学 2021 年度総括及び 2022 年度各学部 FD 活動

学部等名	FD 活動
法学部	<p>[2021 年度 FD 活動総括]</p> <ul style="list-style-type: none"> 「教学に関する懇話会」は実施されなかったが、2021 年度春学期に学習教育支援センターが実施した「オンライン授業アンケート」の結果をもとに、オンライン授業のあり方や工夫の仕方を将来計画委員会および教授会で検討し、オンライン授業について一定のルールを策定した。 <p>[2022 年度 FD 活動]</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度もこれまでと同様、教授会終了後に「教学に関する懇話会」を複数回実施する予定である。
経済学部	<p>[2021 年度 FD 活動総括]</p> <ul style="list-style-type: none"> 経済学部内 FD 学習会・外部 FD 研修。 2022 年 2 月 28 日に経済学部 FD 学習会を開催し、22 年度に学部として実施した教学に関するアンケート結果をもとに、①数理・データ、②フィールドスタディ、③演習の 3 項目を中心に意見交換をおこなった。また、外部の研修会等へ積極的な参加を促し、59 件の参加報告がなされた。 <p>[2022 年度 FD 活動]</p> <p>経済学部内 FD 学習会を開催する。テーマはオンラインによって提供可能なことと、対面授業の方がより適切に提供できる教育サービスとの役割分担を意識した、授業運営とする。</p>
経営学部	<p>[2021 年度 FD 活動総括]</p> <ul style="list-style-type: none"> 新入生相互の交流や経営学部ガイドブックを用いたきめ細かな履修指導を中心とした新入生歓迎会（4 月 2 日開催）は、学生スタッフ（学生 FD 委員）の協力もあり、大変盛況であった。学生の視点からより満足度を高めていくことの必要性ときめ細かな履修指導を継続していくことが確認された。 第 2 回教授会（4 月 22 日開催）において、2020 年度学修成果アンケートの集計結果をもとに、両学科の現況を確認し、教学改善に向けての意見交換を行った。 2020 年度に教授会において確認された「学生の学び」において「入門ゼミ」が重要となるとの認識に基づいて、2021 年度においても 2020 年度に増額した「入門ゼミ」への学部費の予算配分を維持した。 <p>[2022 年度 FD 活動]</p> <p>(1) 新入生歓迎会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 経営学部ガイドブックを用いたきめ細かな履修指導 学生の視点からの満足度を高めるための企画を学生 FD 委員の参加により実施 <p>(2) よりよい教育の実現を目指した議論</p> <ul style="list-style-type: none"> 学修成果アンケート集計結果をもとに、現況を確認、教育上の課題を検討 「学生の学び」において重要となる事項の検討、予算上の措置の再考

学部等名	FD 活動
現代中国学部	<p>[2021 年度 FD 活動総括]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業生及び新入生アンケート 2021 年度の学修成果アンケートの回答率は、73.9%（平均 51.2%）と群を抜いて高かった。また、本学部の特色教育である語学力の伸長に関しては、学部独自の卒業生アンケートを実施した。これらのアンケート結果は、教授会で共有し、学修成果の把握や意見交換の材料とした。 また、学部独自の新入生アンケートを実施し、新入生の全体的傾向の早期把握に努めた。 ・授業改善ピア活動 多くの未入国留学生を抱える本学部において、2021 年度は、対面と遠隔のハイブリッド授業を実施する教員も多かった。残念ながら、授業期間に授業見学をし、ピア評価や教授会報告につなげる時間的余裕が持てなかった。 ・現代中国学会との連携 現代中国学会主催講演会を以下の通り開催した。 日時：2021 年 7 月 9 日(金) 演題：「激変する世界のなかの日中関係―“米中衝突”に日本はどう向き合うか」 講師：加藤 嘉一氏 講演から得た現代中国に関する最新知識は、授業内容にも反映され、授業改善にもつなげることができた。また、講演後の質疑応答、活発な討論の様子から、参加学生に知的充足感をもたらしたことが窺えた。 ・現地に渡航しない現地主義教育に関する研究 21 年度も現地に渡航せず、3 つの現地主義教育を実施した。「オンラインを活用したより効果的な現地主義教育の方法」について、各委員会で検討を重ね、その内容について教授会で報告した。加えて、22 年度からの COIL（国際協働オンライン学習プログラム）導入を教授会にて検討した。 ・教学活動に関するワーキンググループの設置 教学活動に関するワーキンググループの設置及び定期的開催に至らなかった。 <p>[2022 年度 FD 活動]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業生アンケート 学修成果アンケートの高い回答率を維持する。また、本学部の特色ある学修成果を把握するために、学部独自のアンケート（語学系資格取得状況）を実施する。これらのアンケート結果を教授会で共有し、学修成果の把握や意見交換の材料とする。 ・新入生アンケート 新入生を対象とするアンケートを実施する。結果は、教授会を通じて速やかに教員に共有し、今年度新入生の全体的な傾向を早期に把握し、初年次教育に生かす。 ・FD 活動に関するワーキンググループ FD 活動に関するワーキンググループを設置し、定期的を開催する。 ・現代中国学会との連携 現代中国学会講演会・シンポジウムなどと密接な連携をとり、現代中国に関わる広い知識の獲得・共有をとおして授業改善につなげる。 ・現地に渡航しない現地主義教育に関する研究 22 年度も現地に渡航できないケースも見込まれるため、オンラインを活用したより効果的な現地主義教育の方法（COIL 型学習等）を探求し、教授会等で報告する。 ・FD に関わる学部内委員会の活動 学部内委員会の活動のなかで授業改善等 FD に関する活動を教授会等で報告する。

学部等名	FD 活動
国際コミュニケーション学部	<p>[2021 年度 FD 活動総括]</p> <p>＜英語学科＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 深刻なコロナ禍の状況が続くため、Teams・Zoom を使用したオンライン授業をスムーズにそして効果的に行えるように教員は各自工夫をし、意見交換を行った。 ・ オンラインの授業であっても、学生の質問に迅速に対応できる環境を整えた。 ・ 本学活動制限指針レベル 2 の状況下でも演習関係の授業は対面で行われるため、特に 1 年生に関しては入門ゼミで細やかに学生の状況を把握し、オンライン授業をスムーズに行えるようにした。 ・ 現在の入試状況や高校生の動向について学科構成員間で議論した。 ・ 大学のカウンセラーから、学生の生活状況についての話を聞き、日頃の指導に役立てた。 ・ 入学時に行うアンケート結果と CASEC の点数を考慮してクラス編成を行い、授業の運営方法について意見交換を行った。 ・ 注意を要する学生について、学科会議でその学生の情報を共有し、授業運営がよりうまくいくようにお互いに助言をした。昨年度からのコロナ禍で不安を抱えている学生が例年より多いと思われるので、例年以上に情報交換を密に行った。 ・ 英会話・英作文の授業にコーディネーターを引き続き配置し、積上げ式の学習を可能にした。 <p>＜国際教養学科＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 注意を要する学生がいた場合、その都度、学科会議において情報共有をし、学生の指導のあり方について意見交換を行った。 ・ 学習状況アンケートの結果をふまえ、今後の学科の在り方等についての意見交換を行った。これに関連して、ここ数年来懸案事項であった履修者制限に対する学生の不満を解消するため、カルチュラルスタディーズ関連の科目において、一部授業の履修制限の撤廃も含め、可能な限り学生の履修希望に沿えるような授業計画を実施した。 ・ 初年次教育の拡充の一環として、入学前課題に新たにブックレビューを導入した。また、「入門ゼミ」の統一シラバスについて担当者間で協議・作成し、2021 年度から採用することとなった。 <p>[2022 年度 FD 活動]</p> <p>＜英語学科＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続きコロナ禍に対応するため、Teams・Zoom を使用したオンライン授業をスムーズにそして効果的に行えるように教員は各自工夫をし、意見交換を行う。 ・ オンラインの授業であっても、学生の質問に迅速に対応できる環境を整える。 ・ 特に 1 年生の入門ゼミでは、細やかに学生の状況を把握し、オンライン授業をスムーズに行えるようにする。また、学生生活に必要な図書館利用方法、キャリア支援、国際交流などのガイダンス積極的に取り入れる。 ・ 入試課と教務課からのデータを利用して、現在の入試状況や高校生の動向を把握し、必要な対応方法を検討し実施する。 ・ 学生相談室委員やカウンセラーから、学生の生活状況についての話を聞き、日頃の指導に役立てる。 ・ 入学時に行うアンケート調査と CASEC の点数を考慮して習熟度別クラス編成を行い、授業の運営方法について意見交換をする。 ・ 注意を要する学生について、学科会議でその学生の情報を共有し、授業運営がよりうまくいくようにお互いに助言をする。コロナ禍で不安を抱えている学生が多いと思われるので、情報交換を密に行う。 ・ 英会話・英作文の授業にコーディネーターを引き続き配置し、非常勤講師との連絡を密にし、積上げ式の学習を可能にする。 <p>＜国際教養学科＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学科会議での学科教育に関する意見交換・情報共有を継続し、連携して逐次課題・問題に迅速に対処できる体制を維持する。

- | | |
|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none">• 2025年のカリキュラム改編にむけて、学科のカリキュラムの見直しを行う。特に学科の英語教育の積み重ねについて、担当者間での検討を進める。• 導入教育のさらなる拡充について、「入門ゼミ」の将来的な在り方を含め、担当者間で意見交換を行う。また、2021年度の入学前教育として実施したブックレビューを継続し、よりよい活用の仕方について検討を重ねていく。• 昨年度同様に、在学生対象の学習状況アンケートを実施し、教育の成果や課題について問題共有を図っていく。 |
|--|---|

学部等名	FD 活動
文学部	<p>[2021 年度 FD 活動総括]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ラジオ番組「こちら愛大 ～アイダイ・ど・文学部の時間～」 (FM 豊橋) の収録・放送 文学部の教員が自身の研究や教育に関する内容が収録・放送された。合わせて、文学部所属の教員による、コロナ禍における講義、ゼミのあり方を反省的に振り返る座談会「オンライン講義・ゼミをめぐって：失われたもの／得られたもの、そしてこれから」、人文社会学科メディア芸術専攻所属の教員らによる座談会「メディア芸術専攻の 10 年」も収録・放送された。放送は 2021 年 11 月から 2022 年 2 月までの全 17 回にわたって行われ、その後、愛知大学公式 HP および文学部公式 HP を通して公開された。これを通し教育のあり方の検討と自己研修を実施した。 2. 人文社会学と現代に関する研究会の実施 第 21 回「人文社会学と現代に関する研究会」を以下のとおり実施した。(敬称略) 日 時：2021 年 9 月 16 日(木)文学部教授会終了後 テーマ：「文学部における遠隔授業をめぐって：実態と課題」 司会：土屋 葉 登壇者：植田剛史、近藤暁夫、下野正俊、土屋 葉 3. 各学科・コースにおける取り組み ＜人文社会学科＞ 学科として基礎演習をスタートさせ、1 年生向けの導入教育の充実を図った。 現代文化コースでは昨年度に引き続き、新 1 年生対象のコース・ガイダンスをオンライン形式で 2 回行った。また、4 専攻合同の卒論中間報告会を夏休み前に対面・オンラインのハイブリッド形式で行った。 社会学コースでは、社会学士独自のディプロマ・ポリシーに合わせたカリキュラムマップを作成した。また、学生の研究環境の向上のため、社会学研究室の PC 周辺機器の整備を行った。また昨年度はムードル (Moodle) 上にプラットフォームを設置したが、引き続き必要な情報を学生・教員間で共有したり学生に学習の方法を案内したりした。 欧米言語文化コースでは、各専攻内で出席や履修上問題を抱える学生の情報交換を行い、対応を検討した。ドイツ語圏文化専攻のゼミ運営に関しては、ムードル (Moodle) を活用することで他のゼミの発表資料を読み、それに対してコメントするなどの共同参画を模索した。フランス語圏文化専攻では、他専攻の教員が卒業論文の副査を務めるなどして教育経験の交流を図っている。また現代国際英語では、ネイティブ助教と専任教員との授業内容の連続性を高めるために随時教育内容の調整と修正を行っている。 <p>[2022 年度 FD 活動]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ラジオ番組「こちら愛大 ～アイダイ・ど・文学部の時間～」 (FM 豊橋) の収録・放送 2. 教育に関する文学部教員による懇談会等の実施 3. 人文社会学と現代に関する研究会の実施 4. その他、FD 活動の上で必要なことが生じれば、随時対応する。

学部等名	FD 活動
地域政策学部	<p>[2021 年度 FD 活動総括]</p> <p>2021 年度の地域政策学部の学部 FD 活動は、(1) オンライン授業の質の向上と対面授業の安全性確保、(2) 学部開設 10 年の振り返りと今後の課題、(3) 教学や学生生活にかかる取り組みとの連携という 3 本柱の年度目標を掲げて実施し、コロナ禍が継続する中ではあったが概ね遂行することができた。特に今年度の活動として、(1) については、2020 年度に開催したライブ型授業のツール選定や教員対象のオンライン授業学習会、さらには、2020 年度に作成した「学生の研究活動及び学外正課授業等における新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン」に基づき研究活動および学外正課授業を充実させながらオンライン学習および対面学習を行うことができた。(2) については、今年度は 10 周年を記念し、地域政策学ジャーナル『地域政策学部 10 周年記念誌 (第 11 巻別冊)、地域政策学部の挑戦—地域を見つめ、地域を活かす—』を発刊し、現役教員、定年退職教員、および、卒業生の寄稿に合わせて、地域政策学部のこれまでの主な取り組みや今後の課題を総括した。また、学生地域貢献事業の教育的意義を強化するために、2022 年度のカリキュラムから学生地域貢献団体やその活動に参加する学生が地域の実情を踏まえながら関係者との活動を行えるようになることをねらいとする「地域貢献論特殊講義」を開講することとした。さらに、各種委員会を設置して、入学前教育、初年次教育、地域貢献活動などの在り方を議論し、改善した。(3) については、教授会にて学内の取り組みを把握すると共に、各担当者各位と意見を交えた。</p> <p>これらの年度目標は、日々刻々と変化するコロナ禍や社会の情勢を踏まえて適切な改善を行いつつも、本学部の恒常的に行う FD 活動内容であることから、引き続き 2022 年度も教員の資質向上を目指しながら継続して取り組みたい。</p> <p>[2022 年度 FD 活動]</p> <p><年度目標></p> <p>(1) 演習科目群やその他演習授業など実施効果が見込める科目はもちろんのこと、大人数講座を除いた正課授業は、本学の活動制限指針レベルに応じて対面授業に切り替えて実施する。ただし、対面授業の実施については、学生本人、その家族、および、地域社会における安全性を十分に配慮するものとする。一方で、いまだに新型コロナウイルスの感染は継続していることから引き続きオンライン授業の質の向上に取り組む。</p> <p>(2) 本学部の特色をふまえた教育、および、その教育成果を振り返り、課題を探る。</p> <p>(3) 教学や学生生活を支える学内のさまざまな取組みを知り、連携する。</p> <p><活動方法></p> <p>(1) について</p> <p>教職員間の意見・情報交換を促進し、コロナ禍における対面授業、および、オンライン授業(ライブ型、オンデマンド・資料提示型)の質の向上に取り組む。特に、本学部は、多数、多様な演習系科目を取り入れていることから、配慮学生を考慮にいたした演習系科目群のコロナ禍における対面授業の安全的な取組みを心がける。</p> <p>(2) について</p> <p>① 大学間連携共通教育推進事業を進める中で入学前教育、初年次教育の現状や在り方を教員間で適宜議論し、改善を図る。</p> <p>② 学生地域貢献事業への支援等を通して見出された地域貢献活動の教育的意義についての意見交換を行う。</p> <p>③ アクティブラーニングや P B L の取組み成果や課題について教員間の意見・情報交換を行う。</p> <p>④ キャリア形成支援に取り組む中で、地域に求められる人材養成のあり方を話し合う。</p> <p>⑤ 学生地域貢献団体やその活動に参加を希望する学生に対し、「地域貢献論特殊講義」を通じて、地域の実情を踏まえながら関係者との活動を行える学習機会を提供する。</p> <p>(3) について</p> <p>教職課程センター、学習教育支援センター、図書館、学生相談室、キャリア支援課、学生課、保健室などの担当者各位を教授会に招いて意見交換する。</p>

学部等名	FD 活動
短期大学部	<p>[2021 年度 FD 活動総括]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初年次教育のために、全員必修の「基礎演習」の時間に図書館ガイダンスと語学教育研究室（ランゲージカフェ）のガイダンス、本学の建学の理念と歴史を学ぶために東亜同文書院記念センター見学を実施した。 ・学生による授業評価は、履修者数が少ない科目を例外として原則的に短期大学部の全科目について WEB システムを使って秋学期に実施した。春学期は、WEB 利用システム構築が間に合わなかったので実施しなかった。 ・豊橋学生相談室の担当者を教授会に招いて、統計データにもとづいて学生の悩み・相談の現状やその対応について、話を聞いた。 ・カリキュラム改革のために、現状の分析と改善の方法を検討した。 ・学生の実態調査は、アルバイトの実態について社会調査法の科目のアンケート調査の実習として実施した。調査結果の分析はできなかった。 <p>[2022 年度 FD 活動]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き初年次教育のために、全員必修の「基礎演習」の時間に図書館ガイダンスと語学教育研究室（ランゲージカフェ）のガイダンス、本学の建学の理念と歴史を学ぶために東亜同文書院記念センター見学を実施する。 ・学生による授業評価は、履修者数が少ない科目を例外として原則的に短期大学部の全科目について実施する。 ・教育環境や学生生活の改善・向上を図るため、豊橋学生相談室の担当者を教授会に招いて、学生の悩み・相談の現状やその対応について意見交換する。 ・カリキュラム改革のために、現状の分析と改善の方法を検討する。 ・学生の実態調査（アルバイト編）のデータについて、分析し学生の実態を理解、共有する。 ・ゼミの活動について、教授会の場において教育活動事例の報告を実施する。